

実践事例発表資料
(地域連携担当研修会等)

平成30年度 宮城県協働教育推進総合事業

第2回 北部管内協働教育研修会

研究主題
ふるさとを愛し、夢や希望に向かって活動する児童の育成

～ 保護者や地域の人材を生かした協働教育の充実を通して～

栗原市立花山小学校 教諭 鈴木 均

花山小学校の四季



春の桜と花山小の看板



5月5日 鉄砲祭りに参加する子どもたち



校庭の紅葉



冬の花山小



昭和32年頃の花山小学校

児童数 約800名



現在の花山小学校

児童数23名

主題設定の理由

学校生活の中では限られた人と関わることが多く、幅広く思考し判断することや、社会性・社交性を高めることが難しい。



地域の素晴らしい環境や、文化的・社会的な素材を生かした体験的な特色ある教育活動を展開することで、へき学校・小規模校特有の課題を解決したい。



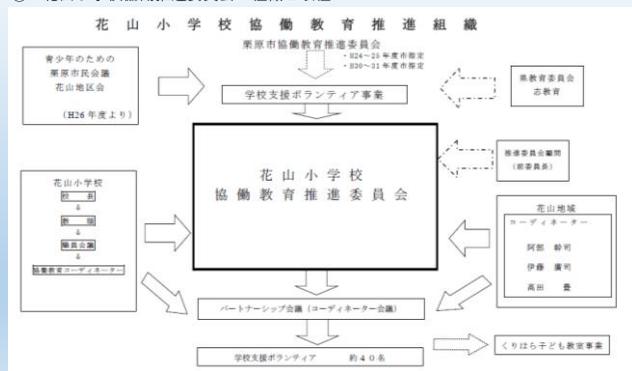
家庭や幅広い地域住民の参画により、地域全体で児童の成長を支え、地域を創生する。地域学校協働活動の推進により、花山を大切にしながら夢や希望に向かって活動する子どもの育成をめざした。

主題に迫る手立て

- ① 多くの学校支援ボランティアの協力を得ながら、様々な体験的で特色ある教育活動を、年間を通じて展開する。また、実践後は活動を振り返り、次の活動に生かす。(PDCAサイクルの確立)
- ② 地域コーディネーターと、学校の担当者が常に連絡を取り合い、有効な素材・人材に関する情報を得る。また、地域の関係諸団体と円滑な連携に努める。
- ③ 「協働教育だより」やホームページによる広報活動を積極的に行い、新たな学校支援ボランティアの掘り出しに努める。
- ④ 多くの学校支援ボランティアや保護者、地域コーディネーター等で組織する「花山小学校協働教育推進委員会」において、1年間の協働教育について話し合い、情報交換したり、計画の見直しをしたりする。

研究の実践

① 花山小学校協働教育推進委員会の組織と取組



平成29年度 文部科学大臣表彰

協働教育推進委員会委員長と前校長



栗原市立花山小学校

② 阿部幹司コーディネーターによる実践

i) ・仙台スポーツ鬼ごっこ愛好会の方を講師に招いての「スポーツ鬼ごっこ教室」



栗原市立花山小学校

③ その他の支援団体と連携した実践

j) ・はなやままるごと博物館（花山青少年自然の家との連携）



栗原市立花山小学校

③ その他の支援団体と連携した実践

k) ・はなやままるごと博物館（花山青少年自然の家との連携）



栗原市立花山小学校

③ その他の支援団体と連携した実践

l) ・はなやままるごと博物館（花山青少年自然の家との連携）



栗原市立花山小学校

③その他の支援団体と連携した実践

m) ・3・4年総合的な学習（福祉体験活動；社会福祉協議会花山支部）



栗原市立花山小学校

③その他の支援団体と連携した実践

n) ・環境整備作業



栗原市立花山小学校

③その他の支援団体と連携した実践

o) ・幼稚園児との交流



栗原市立花山小学校

③その他の支援団体と連携した実践

p) ・婦人会との交流





栗原市立花山小学校

③その他の支援団体と連携した実践

p) ・北の前お茶っこの会との交流



栗原市立花山小学校

③その他の支援団体と連携した実践

q) ・世代間交流（青少年のための市民会議と敬老会）



栗原市立花山小学校

③その他の支援団体と連携した実践

r) ・料理教室（食生活改善推進員協議会）



栗原市立花山小学校

③その他の支援団体と連携した実践

s) ・こんにゃく作り（生活改善クラブ連絡会）



栗原市立花山小学校

③その他の支援団体と連携した実践

s) ・こんにゃく作り2 (生活改善クラブ連絡会)



栗原市立花山小学校

③その他の支援団体と連携した実践

t) ・陶芸教室 (地域代表工藤さん)



栗原市立花山小学校

③その他の支援団体と連携した実践

u) ・音楽祭等のピアノ伴奏 (地域代表高橋さん)



栗原市立花山小学校

③その他の支援団体と連携した実践

v) ・さくら岡祭り (支援団体の皆さん)





研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- ・協働教育推進委員会の会員の、90%以上の出席で総会が開催され、学校側から提案した計画に沿って、今年度も協働教育を実施することができた。
- ・各団体から出された活動の反省について、学校で改善策を検討し、年度始めの総会で改善案を示したことで、今年度の活動がよりよいものになった。
- ・自然が身近にありながら、自然に触れたり、体験したりすることが少ない児童にとって、地域コーディネーターの方々の支援をいただき、自然に触れる機会を得られた活動は、「花山が好き。」、「ふるさとを大切にしていきたい。」と思う気持ちを育てることにつながった。
- ・保護者や地域の方々とふれあいの中で、子どもたちは、花山の地域に興味・関心を高め、「ふるさと花山」への愛着を深めている。また、大人たちの「子どもたちを関わっている全ての大人で育てていきたい」という気持ちを、子どもたちに伝えることができた。

(2) 今後の課題

- ・協働教育推進委員会の活動により、児童に未経験の活動をさせることができた。しかし、外国語活動の増、道徳の教科化により、各教科の時間を確保するため、これまで通りの活動を維持していかれるかどうかを検討する必要がある。
- ・各団体が活動をしていく上で、運営資金等を保障しなければならない。これまでと同等の活動を維持するための予算の確保が必要である。



ご清聴、ありがとうございました。